民主島根
2018年 6.17 第1313号
発行所　松江市袖師町３－６　TEL 0852－24－2444
日本共産党島根県委員会　FAX 0852－24－6369

放射性物質（死の灰）を閉じ込める技術ない

県民は原発稼働を望んでいない

県原発安対協 尾村・大国県議が中電、県に迫る

島根原発が立地する松江市で6日、県原発周辺環境安全対策協議会（会長・溝口善兵衛知事）が開かれ、県議や各種団体の代表らが新規稼働が狙われている3号機や2号機のダクトの腐食問題の概要などについて中国電力の説明を受けました。

意見陳述で、日本共産党の尾村利成、大国陽介の両県議は「原発は莫大な放射性物質（死の灰）を抱えているが、どんな事態が起きても閉じ込めておく技術は存在しない」とのべ、県民は原発の稼働を望んでいないと強調しました。

まつえ男女共同参画ネットワークの山崎泰子代表は「原発は事故が起これば手の施しようがない。原発を動かすわけにはいかない」と訴えました。

傍聴者も発言し、「一日も早く再生可能エネルギーに切り替えてほしい」「中電の説明を受けて、県としての立場を知事がこの場で話すべき」「県として避難計画に関する住民への説明がまったくない」などと指摘しました。

「原発ゼロの島根」の決断を求める尾村県議（松江市）

雲南

原発の稼働中止を要求
9条の会、新婦人が市に申し入れ

雲南9条の会と新日本婦人の会うんなん班は1日、速水雄一市長と藤原信宏市議会議長（写真左）に、島根原発2号機と3号機の稼働中止を県に求めるよう申し入れました。日本共産党の上代和美市議が同席しました。

雲南9条の会の山崎勝彦代表が「人類と原発は共存できない」とし、「県が原発ゼロの立場に立つよう市長、議会として協力を」と呼びかけました。

申し入れはほかに、新規稼働に向けた3号機の適合性申請の事前了解に反対▽原発立地自治体と同様の安全協定の締結▽実効性ある避難計画と市民への周知徹底▽再生可能エネルギーの推進―などを求めています。

速水市長は「原子力に頼らない社会にするため、市内でも再生可能エネルギーを広げていきたい」と述べ、藤原議長は「申し入れの趣旨は議会で反映させる」と話しました。

参院選、県議選での躍進必ず
党県委 全県議員団会議ひらく

日本共産党県委員会は3日、全県議員団会議を大田市で開きました。（写真）21名の地方議員、機関役員ら計28名が参加し、7月末までの党勢拡大目標達成に向けた活動や議会活動などを交流しました。

後藤勝彦県委員長は「市民と野党の共闘と国民世論が安倍政権を追いつめ、党が果たしている値打ちが光っている。党を大きくする絶好のチャンス」と強調。小池晃書記局長（7月16日、松江市）と笠井亮政策委員長（7月15日、出雲市）を迎えた演説会を成功させ、参院選、県議選での躍進を必ず勝ちとろうと呼びかけました。

党出雲市委員会は5日、長岡秀人市長と福代秀洋議長に申し入れました。

党県女性後援会

国政・県政を考えるつどい
尾村県議が原発問題など語る

日本共産党の県女性後援会は5月31日、尾村利成県議を招き、国政・県政を考えるつどいを松江市で開きました。党内外21人が参加しました。

尾村氏は、改ざん、隠ぺい、廃棄、虚偽答弁などの悪質極まる行為を引き起こした政権は安倍政権が歴史上初めてだと強調。これらの行為は、安倍首相の即刻辞めるべきだ」と訴え。

中国電力が島根原発3号機の新規稼働をめざしていることにふれ、「3号機が稼働すれば今後70年、危険な原発と向き合うことになる。島根の未来がかかった闘いです」と話しました。

参加者は「中電の3号機説明会に参加したが、国内最大規模の原発を動かして本当に大丈夫なのか不安になる」などの感想が語られました。

原発NO！市民の声を集めるシンポジウム
6月24日（日） 13:30～15:00
県教育会館・4階会議室（松江市母衣町）
●島根原発をめぐる情勢報告　尾村利成県議
●パネラー　医療・介護従事者ほか
問い合わせ：原発ゼロをめざす島根の会
TEL080-6333-8388（担当：石橋）

鼓動

今年もホタルの季節がやってきた。先日は、家の玄関で出迎えたホタルが私と一緒に家の中へ…。珍客を外に逃がそうと大騒動。やがてスッと私の手の平にとまり、窓から空へ飛んでいった▼その人懐こさもあってか、ホタルは昔から〝人魂〟に例えられてきた。小泉八雲は随筆「蛍」のなかで、侍の前にあらわれたホタルが実は結婚を約束した女性だったというエピソードを紹介している。高畑勲監督の『火垂るの墓』で描かれたホタルは、戦争のなかで命を落とした幼子・節子の短い人生を象徴しているように思えた▼ホタルの季節に悲しいニュースが次々に…。両親から虐待を受けて亡くなった5歳の結愛（ゆあ）ちゃんが覚えたばかりの平仮名で両親への謝罪の言葉をつづっていた。「もうおねがい　ゆるして　ゆるしてください」。なぜ救えなかったのか。虐待をなくすためにどうするのか。結愛ちゃんの言葉は虐待死する毎年100人近い子どもたちの心の叫びとして胸に突き刺さる。社会全体に訴える言葉でもある▼新幹線車内で殺傷事件を起こし逮捕された22歳の男性は「むしゃくしゃしてやった。誰でもよかった」と話したという。事件の背景に何があったのか。人が、人として当たり前に生きていくことが難しい時代になっているのか、と暗たんたる思いがする▼ホタルを追いかける人たちは笑顔に包まれている。人々に純粋な心を生みだしてくれるホタルを眺め、人間らしく生きていける社会への決意を新たにする。きっと結愛ちゃんも、このホタルを見れば笑顔に包まれただろう…と思いながら。（後）